



# 福が満開 おもてなし隊 活動紹介

平成27年4月～6月に大型観光キャンペーン「ふくしまグスティネーションキャンペーン(DC)」が開催されます。福島を訪れた方々を笑顔でおもてなし、DCを盛り上げるために活動する皆さんをご紹介します。

## 江名の町再生プロジェクト

いわき市内でも、過ごしやすい気候が特徴の江名町。町に元を取り戻し、漁港ならではの伝統料理や良さを県内外に伝え、おもてなしをするため昨年12月に会を結成しました。



代表幹事(後列右) 幹事(前列右)  
よしはら ゆうぞう すずき てるこ  
吉原 隆造さん 鈴木 テル子さん



江名町の伝統料理「さんまのぼうぼう焼」など

## 活気ある町を目指して

当初8人だった会員が今では30人になったそうです。「毎月1回以上、観光客をおもてなしするための意見交換会を行っています。『漁港の町・江名』の魅力や地元の人たちの人情を感じてもらい、気軽に町に足を運んでいただけるようなおもてなしがしたいんです」と吉原さん。

## 100年前の栄華を伝える 貴重な民家

「ここは築100年近い元船主の民家。立派な神棚やケヤキの格子戸など、当時の活気がうかがわれます。他にも、江名には現在では入手困難な大ケヤキなどの木材で建てられた貴重な建築物がたくさん。これからも町の宝と伝統を皆さんに知っていただけるよう活動を続けます」



10月26日(日)に初めてのおもてなしイベント「海あるき町あるき江名の町再発見」を開催します！

## あなたも今日から「おもてなし隊」！ 隊員大募集！

福島の良さを伝え、盛り上げたい方なら、どなたでもOK！  
あなたも「おもてなし缶バッジ」をつけて、お客さまを“おもてなし”しませんか？

**対象** 県内に所在する団体・グループ・個人など

**問** 県庁観光交流課 ☎024(521)7398 **福が満開おもてなし隊** **検索**



## あなたも誌面に登場してみませんか？

誌面に登場してみたい「おもてなし隊」の方を募集しています。皆さんの心のこもったおもてなしと心意気を教えてください。

**応募方法** 郵便はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・活動内容をご記入の上、下の宛先までご応募ください。採用の方には、後日ご連絡の上、撮影にお伺いさせていただきます。

**郵送先** 〒960-8670 県庁 広報課「福が満開おもてなし隊」係  
お預かりした個人情報、記事や取材などにのみ使用いたします。



Eメール・ファクスもOK！  
11ページをご覧ください。



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.



小高再生に向け熱心に話し合うメンバー



初めて生産した繭



寄付で購入した機織り道具

「今一番の目標は、避難指示解除後に向けて帰還の準備を整えること。経済活動を取り戻して雇用創出の場を創ることに力を入れていきます。また、復興支援や事業再開した企業で働く人、そして住民」

「養蚕、糸紡ぎ、機織り、製品の販売」という一連の作業を通して、戻って来た皆さんが生きがいと収入を得られるように準備を進めています」

**震災前よりも素晴らしい小高を目指して**



拠点の移動先が小高駅前に決まりみんなで引越しの準備

「皆さんが気軽に食事できる場として、11月には地元のお母さんの手料理をふるまう飲食店もオープンする予定です。小高復興後は、地域住民や企業の皆さんが『新しく何かを始めるきっかけ』を後押しし、震災前よりも素晴らしい小高にしていけたらと思います」



# 2年後の完全帰還を願い、 小高地区の再スタートを支援

小高ワーカーズベース

## ふくしま はじめ人

File No.03

和田 智行さん

<プロフィール>

東京で就職後プログラマーとして独立。平成17年小高町(当時)にUターン。IT関連の仕事を続けていたが、平成23年の原発事故により会津若松市へ避難。「自分自身を含め、帰還するための課題を解決する事業を起こしたい」と小高ワーカーズベースを設立。

小高ワーカーズベース

検索

### ふるさとへの帰還と 大きな課題

「原発事故後、私たち家族は会津若松市へ避難したのですが、『家族で必ずふるさとへ戻る』という強い決意をしていました。小高では、2016(平成28)年4月の完全帰還を目指しています。しかし、住居の修繕が間に合わない状況や、生活条件が整っていないことなど、小高に来るたびに多くの課題が見えてきました」

そこで和田さんは、帰還に向けてビジネスを始めたい人のサポートや、帰還した皆さんが働く場の情報拠点を創るため、今年5月に「小高ワーカーズベース」を設立。住民の皆さんへの細やかな支援も行っており、人が集う場となっています。

### 復興モデルの先進地域に

「小高は、課題解決のモデルとなる試みが生まれる場所だと思っっているんです。しっかりと課題を掘り起こして、新しい復興のモデルになれる先進地域にしていきたいと思っています。そんな話をしてきたことで地元の皆さんも変わってきたように感じています。ある住民の方からは、『小高の今後に希望が持てました。ここから何か変わっていただけるような気がする』と言っていたいただきました」

### 帰還する皆さんに 仕事と生きがい

「戻りたい人が戻ってこられるようにできることをやろう」と、地元的女性たちが立ち上げたNPO法人「浮船の里」を、人、道具、資金面の調達など、事務局としてサポートしている和田さん。かつて小高で盛んだった養蚕・織物業を復活させようと、準備を進めています。以前地元で養蚕をされていた方から技術指導をしていただくなど、多くの方の協力を得て活動中です。

「帰還される方は、初めのうちはおそらく年配の方が中心になると



被災地の雇用について研究している東京の大学生たちと